

「水」が決める企業価値

— 水イノベーターの挑戦

奥田早希子
編集オフィス chomo 代表

⑤

半導体メーカーのロームは、水リスクを「水不足（渇水）」と「水過多（洪水）」という両極端な水の二面性で捉える。前回の水不足への対応に続き、今回は水過多に対する取り組みを見ていく。

洪水でタイの拠点 が操業停止に

2011年10月、タイで発生した大規模な洪水に、同社の拠点も飲み込まれた。幸い人的被害はなかったものの、生産設備が水没して操業停止を余儀なくされた。11月中旬から一部生産を再開したが、通常に戻るまでに2カ月以上を要した。

しかし、自社のことより辛かったのは、サプライチェーンの糸を途切れさせたことだろう。「多くのお客様に、多大なご迷惑をおかけしてしまいました。なかでも自動車メーカーへの影響

が、一番大きかったと思います。被災後に主要な取引先のメーカーの方が当社に集まり、当社の担当者と延々と復旧策を協

あらゆるリスクに向き合う

ローム（下）

自動車のように完成までに必要な部品・部材が

サプライチェーンを途切れさせない

に耐震化が頭に浮かぶ。同社もそうだった。しかし、タイでの経験を機に洪水対策にも力を入れるようになった。洪水リスクの高い国内外の拠点では、建物1階部分を地上3層まで高上げし、高上げた地上部分には倉庫、駐輪場を設け、生産設備・付帯設備類は建物1階部分に設置する設計とした。「洪水を経験したからこそ、洪水により発生するリスクが明確で、それによってリスク回避策も明確になりました」（土井室長。経験に基づき実直かつ確



建物全体の高上げなど、洪水の教訓を生かして建設されたタイのロームインテグレーション後工程の最先端の工場として4月から稼働する予定だ（ローム提供）

WのAリストに選ばれたことのインパクトは大きかったようで、海外の機関投資家や大学の先生などから問い合わせを受けています。

世の中のために、そして、サプライチェーンを途切れさせないために「まだまだやれることはあります」。同社は早くも次を見据えている。

議していました。みんな協力して対応を続けた結果、一番早く復旧することができました。当時は大変でしたが、逆に強固な協力関係を築けたように感じます。環境管理室の土井真人室長は当時をこう振り返る。

多くなればなるほど、関わる企業も多くなり、サプライチェーンは長く、複雑になる。同社はその上流寄りに位置するだけに、影響を及ぼす範囲は広い。地震大国日本で災害対策と問われれば、真っ先に

実なリスクマネジメントは、CDPウォータープログラム（CDPW）でAリストに選ばれた大きな要素となったと推察される。海外投資家から問い合わせも同社がCDPWに回

答したきっかけは、国内外を合わせて10社ほどのサプライチェーン下流側の企業から要請があったからだという。「今まで

筆者：奥田早希子（編集オフィス chomo 代表、東洋大学PPP研究センターリサーチパートナー。環境新聞記者を経て独立。編集企画、広報アドバイザー、執筆等）